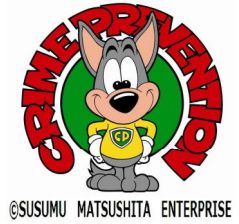


地域の輪を広げる

島根県出雲市立浜山中学校 1年 まつい あやの
松井 彩乃



小学校の低学年の時のことです。学校へ行く時も、学校から帰る時も、近所の人があいさつをしてくださいました。でも、私はあいさつを返すのがはずかしくて、あいさつを返さない時が多かったです。小学校の先生が「もし声が出なかったら礼だけでもいいですよ」と言っておられたので、礼だけしかしていませんでした。でも、礼をするだけでは「あいさつをしたのに返事を返してくれなかった」と思われるということを知りました。

そのことを知ったのは、いつも通り学校に行っていた日のこと、近所の人「あの子あいさつしても返してくれないね」と言っておられたそうです。それを聞き、私は「やはり礼をするだけではだめなのか」と思いました。

その次の日から「声を出してあいさつしよう」と思いました。しかしそう思っても朝はなかなか声が出ませんでした。だから小さい声でも少しは出そうと思い、礼をしながらも小さい声であいさつを続けていました。続けていくとだんだん朝でも大きな声を出すことができました。大きな声であいさつができるようになった時、その近所の人にあいさつするチャンスがありました。とても緊張しましたが、勇気をふりしぼって大きな声であいさつをしました。するとその人は笑顔であいさつを返してくれたのです。その時あいさつがどれだけうれしいのかがよく分かりました。

その日から私は毎日あいさつを続けました。学校へ行く時や帰る時、なるべくあいさつをするように心がけました。あいさつを続けて何カ月か経ったころ、家に帰ると祖母に「近所の人があやのちゃんのあいさつをほめとらいたよ」と教えてくれました。私はそれがとてもうれしかったです。

あいさつをするとうれしい気持ちになるということあまり信じていませんでした。しかし、小学生の時の出来事から、本当だと思えてきました。

そして、近所の人にあいさつをすることで近所の人との仲が深まります。そうすると、困った時や、ケガをした時に顔なじみなので助けてもらえます。もしも、不審者が出た時にも、助けてもらう事ができます。

でも、中学生になってから自転車通学になると、あいさつをする機会がだんだん減ってきました。最近は近所の人を見かけてもあいさつをせずに通り過ぎてしまうことが増えてきました。このままでは小学校低学年の自分に戻りそうだと感じています。戻らないためには近所の人を見かけたら積極的にあいさつをすることが大事だと強く感じています。

通り過ぎてしまった後、私はあいさつをすればよかったかなと思ってしまい

ます。そういった後悔をしないためにも、あいさつは大事だと思います。あいさつをすればうれしい、あいさつを返されたらうれしいという気持ちとともに、自分の身を守ることにもつながると思います。まずはあいさつをするなど、身近な事から防犯に心がけてみてください。小さな積み重ねで少しずつ自分の身を守っていきましょう。

あいさつをして、自分も近所の人も家族も笑顔になれるような元気なあいさつをめざしてがんばってみようと思います。